



助かる命 助ける勇氣

～小さな意識が大きな意味～

ゴルフ場で30年以上勤務する清水さん。平成26年11月。プレーに出たお客さんからフロントへ仲間が倒れたと連絡が入った。これまで心肺蘇生を2回行ったことがあった清水さんは、AEDを持って現場に飛んで駆けつけた。「1分1秒を争う事態だが、冷静でなければ対処はできない」という清水さん。日頃の訓練や連携から、救急車の手配など迅速かつ冷静に従業員に指示を出した。倒れたお客さんのところに着く。心肺停止で意識も呼吸もない。清水さんはすぐにAEDによる応急手当を行った。お客さんは息を吹き返し、救急車が到着したときには、意識も戻り、一命をとりとめた。迅速な手当により、1か月後には社会復帰も果たせた。

「初めてそういった現場に立ち会った人は、動揺と恐怖から患者に触れることができず、何もできない人がほとんど。だからこそ、訓練を受けたり、AEDの設置場

所を確認したりと、日頃から意識しておくことが大切」という清水さん。現在普及が進むAED。みなさんの家の近くにも設置場所があるかも知れない。また、救命講習も会社や団体に受けることができる。「知っていて損はない」と清水さん。そういった日頃からの小さな意識が、いつか大きな意味を持つかも知れない。「いつ誰がそういう立場になるかわからないでしょ。なるべく多くの人を助けたいし、自分がそうなったときは誰かに助けてほしいね」と最後に笑顔でそう話してくれた。

しみず たかし
清水 高さん
(児玉町飯倉在住)



命を左右する8分
119番通報をしてから、救急車が現場に到着するまで、全国平均で8分36秒。この約8分間のあなたの対応が、命を左右するかも知れません。8・4%。これは一般市民が目撃した、心臓が原因の心肺停止のうち、心肺蘇生を実施しなかった場合の1か月後の生存率です。もし、心肺蘇生を実施していたら、その生存率は約1・8倍の15・4%になります。さらにAEDを

使用し除細動をすることができれば、生存率は6倍の50・4%まで上がります。**知っていますか。AED** 生存率を6倍まで上げることができるAEDをみなさんは知っていますか。AEDとは、自動体外式除細動器のことをいい、心室細動などの不整脈に対し、心臓に電気ショックを与えて正常な状態に戻す医療機器です。電源を入れると音声で操作方法を案内してくれるので、どなたでも簡単に使えます。



ほんの少しの勇氣と知識
音声ガイド付きのAEDですが、使ったことのない人が、実際の現場でとっさに使えるのかというと、難しいかもしれません。また、AEDがなかった場合や、実際の手順などその状況はさまざま。そのときに備えて、ぜひ、この救急の日、改めて考えてみてください。

日頃の確認 身近な場所に
AEDは、市有施設や店舗などいろいろな場所に設置してあります。いざというときに備えて、日頃から設置場所を確認しておきましょう。



街の情報館で設置場所を確認!

インターンシップ (職場研修) 特別企画 早稲田大学生が作る 救急特集

あなたにしか救えない命

勇氣と知識でつながる未来

Interview
命をつなぐ連携 あなたにできる命のバトン
「実際に隊員が自分の目で患者を確認するまで具体的な救命措置はなかなかできない。だからこそ、誰にでもできる根本的な措置である心肺蘇生法やAEDの使用は重要」と訴えるのは救急救命士の新井さん。救急車が現場に到着するのは時間的に限界がある。自身の経験からも心肺停止の患者が一命をとりとめるのは決して簡単なことではなく、その中でも市民の救急措置が生存への可能性を大きく広げることを実感してきた。「救急車が到着するまでの時間をどう繋ぐかが命を救う鍵となる」と新井さんはいう。また、「救急救命士としても患者にできる措置は限られている。いかに早く現場に着き、病院に運べるかが勝負」と救急措置と同時に患者の早急な搬送も重要だと話す。119番通報して患者の容体よりも先に聞かれるのは、現場が「どこにあるか」ということ。もし知らない土地で突然そのような状況に遭遇したとき、あわてて答えられないと救急車到着の時間は少しずつ遅くなっていく。住所などは近くの電柱に記載されているもの。「みなさんのちょっとした心掛けと冷静な判断がいち早い救命につながっていく」と意識の大切さを語った。



児玉都市広域消防本部 中央消防署救急隊小隊長 新井 創さん

Profile
消防隊として8年間勤務し、9年目となる今年4月、より多くの人々を救いたいという気持ちから、点滴と器具を用いた気道確保が許される救命士になる。

あなたの気持ちで命をつなぐ

救急フェア

9月9日「救急の日」。この日を含む1週間を「救急医療週間」と定め、救急業務の普及啓発運動を全国的に実施しています。児玉都市広域消防本部では、救急業務に対する住民の正しい理解と認識を深めるため、救急フェアを開催します。

日時 9月9日(金) 午前10時～午後3時

場所 イオンタウン上里 1階ふれあいコート

内容 ①AED・心肺蘇生法の実技指導(乳児・小児・成人) ②止血法 ③血圧の測定 ④119番通報訓練装置使用による通報訓練指導 ⑤風船の配布 ⑥ミニ梯子車の展示等

★児玉都市広域消防本部警防課 ☎248391

救命講習会

①普通救命講習Ⅰ(3時間) 11月12日(土)・12月9日(金)・平成29年1月21日(土)・2月17日(金)

②普通救命講習Ⅱ(4時間) 9月17日(土)・10月14日(金)

※その他おむね15人以上での申し込みの場合、新規日程の設定もできます。

時間 午前9時～

場所 児玉都市広域消防本部 (西富田904-3)

対象 中学生以上の本庄市児玉郡内 在住・在勤・在学者

申込 1週間前までに電話又は直接左記へ

※定員30人になり次第締切。7人未満の場合は実施を見送る場合があります。

★児玉都市広域消防本部中央消防署 ☎248395



編集後記

実際に足を運び、市民の方の話や思いを直接聞くことで関心が高まることを実感しました。救急について知っておくべきという認識はあってもいざ人の生死を左右する状況に立ち会ったときどう行動するか、そのためにどういった準備をしておくのかまでは考えにくいものです。だからこそ取材を通して生の声を聞くことで初めて講習の経験や救急への小さな意識の重要性を強く感じさせられた。それをどう表現するのがいいかという難しさの中で、記事に記した私の感じたことが市民の方に伝われば幸いです。



早稲田大学2年 須藤 駿斗

※この記事はインターンシップに来た早稲田大学生が広報担当協力のもと作成しています。